

記者発表資料	
平成30年6月29日	
担当課 (担当)	長寿社会課 (医療介護連携係 橋本渉)
電話	0857-54-1970 (鳥取県東部医師会館内)

「因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏」で ACP の啓発活動を展開します
～生き方を支援する終活支援ノート「わたしの心づもり」を作成～

本市では、地域包括ケアシステムの構築に向けた施策の一つとして、「在宅医療・介護連携の推進」に取り組んでおり、その一環として、この度「因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏」の1市5町が連携して、終活支援ノート『わたしの心づもり』を作成しました。

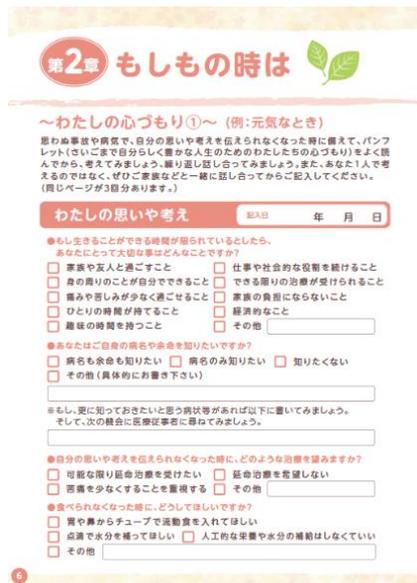
【目的】

人生の最終段階における医療・介護についてあらかじめ話し合い、また繰り返し話し合うことの必要性を理解していただき、*ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を実践する活動につなげていくことを目的としています。



【作成部数】 5千部(平成30年度分)

民間提案事業として全国的に事例を展開中＝広告料収入で作成(自治体の費用負担なし)



【本案件の特徴】

- 複数の市町が共同(連携中枢都市圏)した取り組みは全国的に珍しい取り組みです。
- 繰り返し話し合った気持ちが残せるよう、もしもの時の医療や介護のページを3回分作成しました。
- ACP啓発パンフレット(さいごまで自分らしく 豊かな人生のためのわたしたちの心づもり)と併せた活用で、啓発効果を高めます。

【活用の方法】

- 保健師等による健康づくりや介護予防などの出前講座
- 東部地区在宅医療介護連携推進協議会の住民啓発学習会 等でACPの啓発と併せて配布します。

※ACP(Advance Care Planning)とは：人生の最終段階の医療やケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセスのこと。

ACPの啓発は、現在も住民啓発学習会などでパンフレットを使って考え方の説明を行っているところですが、この実践ノートも加えて説明することで、住民がACPを具体的にイメージし、理解や取り組みが促進されることを狙っています。

今後、圏域市町が実践ノートを活用して啓発活動の展開することで、圏域住民の理解が一層深まることが期待されます。

【ノート作成の背景と目的】

- 「因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏」の構成市町においては、ひとり暮らしの高齢者世帯や高齢者のみ世帯が増加し、さらに認知症高齢者も増加しています。
- 将来病気や認知症などで自分の思いを伝えられなくなった場合に備えて、日頃から自分らしい人生について考え、そしてその考え方や価値観、受けたい医療や介護について、他者と共有しておくことが大切となります。
- このノートは、圏域住民がノートを使用することで、人生の最終段階の医療や介護について、日頃から家族や親しい人、医療や福祉の関係者と一緒になって話し合い、考えるための切っ掛けとしていただくことを目的としています。

【ノートの特徴】

- 思いや考えが変化することは誰にでもありますので、繰り返し話し合った気持ちが残せるよう、もしもの時の医療や介護のページは、3回記入できるようにしています。
- 啓発活動において、まず東部地区在宅医療介護連携推進協議会(鳥取県東部医師会)作成のACP啓発パンフレット(さいごまで自分らしく 豊かな人生のための わたしたちの心づもり)で説明を行い、続いて終活支援ノートで説明することで、啓発効果を高めるようにしています。

【配布の方法】

- 各市町の高齢者福祉担当課や地域包括支援センター窓口等での配布をはじめ、保健師等による健康づくりや介護予防などの出前講座や、東部地区在宅医療介護連携推進協議会の住民啓発学習会で参加者に配布する予定です。
- 配布方法は、まず既存のACP啓発パンフレットでACPの内容と必要性の説明を行い、続いてその実践ノート「終活支援ノート」で説明した上で、配布します。
- 医療機関や介護事業所での配布や活用も今後検討していきます。

[参考]

Advance Care Planning (ACP) … 「人生の最終段階の医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス」のこと。

※厚生労働省医政局地域医療計画課「人生の最終段階における医療・ケアの普及・啓発の在り方に関する検討会」の「人生の最終段階における医療・ケアの普及・啓発の在り方に関する報告書(平成30年3月)」P5より